

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 中川・松岡)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

～ 目次 ～

1. 事務局からのお知らせ

2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
 (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
 (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
 (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
 (14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
 (17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
 (23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

3. 生活実験工房からのお知らせ

4. その他の事項

会員数・・・354人

グループ数 25グループ

(2021年5月31日現在)

1. 事務局からのお知らせ

今年度「はしかけ」制度の担当をさせていただきます交流係の中川信次です。本年度も皆様の活動に積極的に参加したいと考えています。その際にはよろしくお願い致します。

さて、昨年度はコロナ禍にあって、世の中全体で電子化へのねじが強制的に巻かれ、良くも悪くもオンラインを取り入れたライフスタイルが、皆様の生活の中にも急速に浸透しつつあるのではないのでしょうか。はしかけ活動につきましても、振り返ってみればグループ内の情報交換に始まり、グループ紹介のHPや動画の作成、登録講座のオンライン化導入まで、この1年は目まぐるしく変化してきました。また、研究や成果の発表会をオンラインで開催するグループも現れたりしました。

このような流れの中で、はしかけ制度においても交流や情報発信について、オンライン化に前向きに取り組んでいきたいと考えています。まずは、本年度は琵琶湖博物館のはしかけ活動紹介ページの充実を目的に、SNSに関する勉強会のようなものも開催できればと考えています。新しいことに取り組むには大変なこともあります、新しい発見や出会い、つながりができると思います。事務局も皆さまと共に、また1年頑張っていきたいと思っております。

■新型コロナ警戒ステージにおける「はしかけ」活動について

令和3年4月15日に滋賀県内の新型コロナウイルスの感染状況が「警戒ステージ」に引き上げられたことに伴い、「はしかけ」の活動について、事務局としましては当面の間、以下のとおりの方針としています。

屋内（博物館施設含む）・・・特定少数のメンバーの活動は可。飲食厳禁。

屋外・・・特定少数のメンバーの活動は可。飲食は十分な間隔を取り、非対面で摂取することは可。
 ただし、現地での調理や、持ち込んだ食料の交換は厳禁。

※ただし、活動の実施にあたってはメンバーや担当学芸員でよく話し合って決定して下さい。また、活動される場合には感染症対策は十分に行って頂きますようお願い致します。

(中川 信次)

2. はしかけグループの活動報告と活動予定



(1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 63名】

グループ代表アドレス: hashi-uonokai@biwahaku.jp

グループ担当職員: 田畑 諒一

【活動報告】

■3月28日(日)

午前:運営会議 参加者:9名

午後:2020年度総会 場所:琵琶湖博物館ホール 参加者:25名

総会の議案は、2020年度の活動報告、役割決定、2021年度の活動計画と続き、これに環境DNA調査協力の総括、活動写真による振り返りが加わり、最後は担当学芸員の松田さんの記念講演となりました。

- ・2020年度活動報告:定例調査で89データ、個人調査で47データが集まりました。次年度も協力し調査を続けていきましょう。
- ・役割分担:昨年同様、会長中尾氏、副会長高田氏となり、12名の運営委員体制で活動を進めることになりました。
- ・2021年度活動計画:活動自粛のため2021年度に調査できなかった場所に加え、野洲川周辺を調査場所に加えています。
- ・松田学芸員の記念講演:琵琶湖文化館時代からの38年間の思い出として、松田さんの学芸員人生を拝聴することができました。魚が豊かな古き良き時代から、私たちがこれから進んでいく道が見えてきたように思えました。松田さんありがとうございました。4月からはうおの会のメンバーとしても一緒にいただけるとのこと、一緒に活動できる楽しみが増えましたね。
- ・その他:活発に活動されていた若手のメンバーたちが、この春から専門の大学や高校に進学し活躍されます。4月からは健康に留意して、新生活を頑張ってくださいね。みんなでエールを送りましょう! (報告:手良村知央)

■4月18日(日) 第157回定例調査(中止) 場所:野洲川 参加者(集合人数):16名

前日に雨が降り、増水が予想されるも、当日は晴れの予報。早朝にWebで水位やライブカメラを見るも判断がつかず、集合して様子を見てから決めることに。結果、川は増水、さらに風・寒さ・小雨と状況も悪く、中止となりました。集合して頂いた皆さん申し訳ありませんでした。

初参加の人や久々の参加者もいたので、増水の野洲川を眺めながらしばし雑談タイム。もちろん屋外でもマスク着用です。皆さんの最近やっていることを聞いたり、野洲川の魚情報について話したりして、採集だけでなくこのような時間もいいものだな、と思いました。

解散後は増水のましな近くの支流へ採集に行く人(私ほか数名)、ホンモロコ釣りに北湖まで行く人など、相変わらずの魚好きばかりでした。いろいろと難しい状況ですが、できる範囲で楽しくやって行きたいです。(報告:中尾博行)

■5月16日(日) 第158回定例調査 場所:野洲川親水公園内の池、水路、川 参加者:13名

5月16日、小雨強風の中、時間短縮で第158回定例調査をおこないました。先月も雨と増水で中止だった野洲川中流域の、親水公園内にある池、水路、野洲川流入河川(※)を参加者13人全員で1班とし、調査しました。6種類の魚類と、沢山のヤゴ、エビ類、水生昆虫等に出会いました。久しぶりの調査で、水に入ると皆さん生き生きとしていました。(報告:田中治男)

※河川改修による付け替えで隣の川と合流し下流部が消滅した「由良谷川」の、元の流路部分にあたるようです。その割に流量があったような?雨で、農繁期だったからでしょうか。(中尾付記)

【活動予定】

今後ですが、総会で決定した定例調査場所の大幅変更を検討しています。昨今の情勢を受け、車の乗り合わせを避け、徒歩で分散して調査できる場所を選び、計画を作り直す予定です。決まりましたら、メールでお知らせします。



採集されたドンコ



ナマズの卵も見つかりました



(2) 近江 巡礼の歴史勉強会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-junrei-rekishi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 橋本 道範

【活動報告】

新型コロナウイルスのさらなる感染拡大の影響で再び活動を休止しています。

【活動予定】

蓄積データの編集などの作業を中心に今後の活動計画を見直す。

(福野憲二)

*この活動に興味のある方は、上記メールアドレスにてご連絡ください。



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス: hashi-sketch@biwahaku.jp

グループ担当職員: 榎永 一宏

【活動報告】

■ 3月 21 日(日) 参加者:5名

オープンラボにて剝製等のスケッチ。

■ 4月 18 日(日) 参加者:3名

屋外スケッチ。

守山市赤野井町付近の田園風景を描く。

■ 5月 16日(日) 参加者:5名

雨のため、オープンラボにて仰木の棚田について場所の確認。

鴨等のスケッチ。

【活動予定】

6月 20日 醒ヶ井(米原市)のスケッチ、吟行等。醒ヶ井の駅前に10時集合。

7月 18日 オープンラボにてスケッチ(10時~16時)



(4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ代表アドレス: hashi-oumihataori@biwahaku.jp

グループ担当職員: 橋本道範

【活動報告】

■3月27日(土) 参加者:5名

いつもの作業。地機の機織りと糸紡ぎ(麻、綿)。

■4月10日(土) 参加者:2名

地機の糸があまりに切れるので、調整しました。おかしい部分を確認して、糸をつなぎ直して、やっと糸が切れなくなりました。

■4月28日(水) 参加者:3名

いつもの作業。地機の機織りと糸紡ぎ(麻、綿)。前回に糸の調整をしたため、あまり切れることもなく、順調に織れました。

■5月12日(水) 参加者:4名

地機で機織り。また、今後のワークショップに向けて、新たに「糸ボタン」に取り組んでみましたが、コツがわからず挫折。もう少し練習が必要なようです。



5月12日糸ボタン作成中

【活動予定】

■織姫の会

5月29日(土)、6月9日(水)、26日(土)、7月17日(水)、28日(土)

(辻川智代)



(5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ代表アドレス: hashi-ganseki@biwahaku.jp

グループ担当職員: 里口 保文

【活動報告】

■2021年3月の活動

○調査予定地の紹介および勉強会(参加者9人)

日時:2021年3月21日(日)13:30~15:45

場所:琵琶湖博物館 実習室1

1. 概要:

当初予定していた、野外調査「南郷洗堰周辺の調査」は雨天のため中止し、担当者の機転で、屋内勉強会に切り替えた。担当の北野さんからは、洗堰周辺の事前勉強の報告と討論、後半は梅澤の現在の研究内容の報告と討論、田中さんから採取石の開示があった。また、今後の予定の立案も進めた。コロナ対策として終了後の机などの拭き掃除を実施した。

2. 実施事項のポイント

(1)北野報告の概要

北野さんから、①中野さん等が編集された産総研の「京都東南部の地質」の地質図を使い、鹿飛び橋周辺はチャート、泥岩、花崗岩等、多種の岩石があるとの説明があった。瀬田川の流路のお話の中で、里口さんから昔(古琵琶湖の時代)の流れは鹿飛び橋では西に曲がらず、更に南部に流れていた等の話が追加された。②事前調査の報告は、コロナ社の滋賀県地学のガイド(上)を活用して行われた。若干、書籍の説明と異なるのお話もあり、瀬田川の増水の影響等で観察できる範囲も異なるとの提起もあった。③次回の調査は瀬田川の水位が低下する夏の午前や12月や3月なども考慮すべしとの提案もあった

(2)梅澤:研究中の相模川の角礫岩脈

現物の石を持参して現状の説明と質疑討論を実施。掃除の後にも、中野、里口、三上さんとさらに討議した。実に真摯・真剣な討議が出来た。できれば、こうした討議・討論を皆さんの参加でしたいと思った。

(3) 今後の予定の立案

今年度の調査・勉強会の予定について、担当と実施場所等について検討した。
一部は調整中で、概ね予定を検討した。

■2021年4月の活動

○逢坂山周辺の岩石調査（参加者 9人）

日時: 2021年4月25日(日) 10:00 - 15:30 快晴、爽快。

場所: 逢坂山、長等公園

1. 調査の概要

梅澤隊長が以前から調査している大津市・逢坂山は付加体が主で、近くには花崗斑岩脈等も知られている。注意して調査すると、細粒花崗岩などもあるようにも思えた。一方、逢坂山は低いが、見晴らしがよく、昔の相場山としても知られている。かかる観点から、足下の岩石調査、周囲の外観把握、長等公園の名石調査、体力向上も兼ねて実施した。

今回はこの地域の特に関心する岩脈にも詳しい立命館高校の貴治さんにもお願いし現場で議論頂いた。朝方は曇りも出ていたが急速に快晴になり、貴治さんの適格な説明、隊員との討議もあり、収穫の多い調査となった。

2. 調査のポイント

JR大津駅に集合し、京阪上栄町駅を通り舗装された急坂を登り菩提樹もある高台のお寺の前から琵琶湖を足下に見、左手の赤い岩の山道を登ると広場に出る。ここからは比良や湖北、湖南も良く見えて展望台からの景色を堪能。もっと上はもっときれいだからと言いつつ展望の堪能は早めに切り上げ、ルートに従い、淡い赤色の岩、赤紫に近い岩等の調査。主体はチャートや泥岩。着色の原因は酸化鉄。それらはいずれも熱変性しているとのこと。山頂の手前のお寺が見える場所から離れて、昼食。あべのハルカス等の大阪の摩天楼も見えた。その後、逢坂山山頂で快晴下の琵琶湖の広大な景色・雰囲気を楽しんだ。ここから見ると近い海とも思える。湖北の山の向こうに白山も見えたという人もいた。

その後は山頂からルート沿いに調査。火成岩と思われる岩の露頭、転石を幾つか見つけた。昔のマンガンの露天掘り跡もあった。今回確認した岩石の確定は薄片等のテストも必要であるので、後日、今後の対応は打ち合わせたい。

なお、今回、確認した岩石は音羽山の北斜面にかなり広い範囲で分布している物もある。その意味ではそれなりの影響を与える可能性もあるので慎重に進めたい。

小関越の舗装道に出て、長等公園に向かった。ここには大きな名石が置かれている。貴治さんの丁寧な説明に皆さん感動して頂いた。この場所は春の桜、秋の紅葉はことのほかすばらしい。蚊がいなければ、夏に銘石調査もいいと思われる。



大津市・長等山公園・銘石の調査をする皆さん(撮影:北野)

■今後の予定

5月 5/23 予備日 5/30 担当:中村 織山北側の溶結凝灰岩の調査

6月 6/20 担当:梅澤 盛越川の花崗斑岩・フェルサイト併存露頭、三田川巨大石英調査

7、8、9月 屋内 勉強会、南郷の調査は水位低下する8月(実施時間考慮)

10月 びわ博フェス参加(実施されれば)

11月 八王子山調査 斉藤

12 or 3月 南郷の調査 北野

1、2月 屋内活動

グループ代表アドレス: hashi-onkosyasin@biwahaku.jp

グループ担当職員: 金尾 滋史

【活動報告】

■4月24日(土) おでかけ撮影会 in 木之本町 参加者:10名

JR 遅延のトラブルなどもありましたが、北国街道を中心とした、木之本町の街並みを撮影しました。有名な木之本地蔵院をはじめ、歴史ある街道沿いを歩き、また最後には神社でいろいろな生き物なども撮影できました。幸い良い天候に恵まれ、撮影日和となった一日でした。



■5月16日(日) おでかけ撮影会 in 彦根

昨年度に引き続き、彦根市内の大橋コレクション撮影地を巡った撮影をする予定でしたが、残念ながら雨予報のため、中止となりました。

【活動予定】

■6月13日(日) おでかけ撮影会 in 石部 10:00 JR 石部駅集合

■7月11日(日) おでかけ撮影会 in 醒ヶ井・柏原 10:30 JR 醒ヶ井駅集合

**(7) 暮らしをつづる会****【活動報告日の活動会員数(のべ) 1名】**

グループ代表アドレス: hashi-kurashi@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大久保美香

【活動報告】 活動はありませんでした。**【活動予定】** 未定です。**(8) 古琵琶湖発掘調査隊****【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】**

グループ代表アドレス: hashi-hakkutsu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 山川 千代美

【活動報告】

■多賀の発掘現場の土から微小な化石を探す作業

日時:3月19日(金) 13:00~15:30 場所:琵琶湖博物館実習室1 参加者:2名

日時:3月23日(火) 13:00~15:30 場所:琵琶湖博物館実習室1 参加者:2名

活動内容:多賀の発掘現場で採取した土から、微小な化石を探す作業をおこないました。少人数ずつでの活動ではありますが、丁寧に作業をおこないました。

■勉強会「ワニの眼で見た古琵琶湖層群と大阪層群」

日時:4月11日(日) 13:00~15:00

場所:琵琶湖博物館実習室1 参加者:10名

活動内容:谷本正浩さんから、「ワニの眼で見た古琵琶湖層群と大阪層群」という題名で講義をしていただきました。内容としては、ワニ化石発見の傾向として、古琵琶湖層群では古い時代の地層からのワニ化石の発見が多く、大阪層群では古琵琶湖層群のワニ化石の産出する時代と入れ替わるように、主に新しい時代の地層からワニ化石が見つまっていることを指摘されていました。

また、ワニの歯の化石でも形状に違いがあり、細くてとがった歯は魚を捕獲するのに適していることや、ずんぐりとした歯は貝などを砕くための歯であることが考えられるなど、ワニ化石から生態を想定することや、様々な知識、考え方を学ぶことができました。発掘でワニ化石を発見した時に、化石から当時どのような環境だったのか、何を食べていたのかなどを考えられるよう、今回の勉強会で得た知識、考え方をより一層活かしていきたいと思います。

終了後は、今後の活動についての打ち合わせを短時間おこないました。



勉強会の様子①



勉強会の様子②

■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第八次発掘調査」への参加

日時:4月24日(土)・4月25日(日) 9:00~16:30 場所:滋賀県犬上郡多賀町四手 参加者(のべ人数):15名

活動内容:多賀町四手でおこなわれた古環境調査「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第八次発掘調査」に参加しました。昨年度は中止だったため、メンバー達は今回の調査実施を心待ちにしており、調査地では久しぶりに会うことができた発掘プロジェクトの参加者の方々と発掘調査の実施を喜び合いました。新型コロナウイルスの感染防止対策を万全におこなうため、様々な制約がある中での調査でしたが、メンバー達の何名かは、発掘調査の際、組分けされた組のまとめ役や休憩時間を指示する役などを担い、各組で発掘調査が円滑に進むよう心掛けました。また、初参加の方々に、調査での化石の探し方や計測の方法などを説明するメンバーの姿も見られました。当初4月24日~4月29日まで発掘調査がおこなわれる予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で26日以降中止となり、参加できなくなってしまったメンバーもいました。継続的に調査がおこなわれることの難しさや重要性を改めて感じた発掘調査となりました。

■粒度表作成のための土の採集

5月中旬~下旬に活動を予定していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、活動を延期しました。

【活動予定】

未定ですが、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を見ながら、延期及び計画中の活動を随時おこなっていく予定です。



(9) ザ！ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) - 名】

グループ代表アドレス: hashi-discov@biwahaku.jp

グループ担当職員: 田畑 諒一

【活動報告】

■4月27日(火)・28日(水)・30日(金) カプトを作ろう！(中止)

昨今の情勢に配慮し、中止としました。カプトの作成方法を描いたシートを琵琶湖博物館 HP 内のおうちミュージアムに掲載しました。

■5月19日(水) 季節の植物でアロマウォーターを作ろう(ディスカバでのイベントとしては中止)

昨今の情勢に配慮し、ディスカバでのイベントとしては中止としました。

主催のはしかけグループ員の方々、館内職員によるアロマウォーター抽出作業はしました。

【活動予定】

■7月7日(水) 季節の植物でアロマウォーターを作ろう

昨今の情勢次第で変更の可能性があります。

【その他】

今年度から、担当学芸員が田畑に代わりました。どうぞよろしくお願いいたします。

ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽に田畑まで声をかけてください。いつでもお待ちしております！

新しいメンバーも大募集中です。一緒に楽しい発見(ディスカバ)してみましょう！
また、ザ！ディスカバはしかけでは、定期的にイベントを開催しています。ぜひご参加ください。



(10) 里山の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 30名】

グループ代表アドレス: hashi-satoyama@biwahaku.jp

グループ担当職員: 美濃部諭子

【活動報告】

■ 4月17日(土) 里山体験教室 下見 参加者15名

翌週4/25(日)の本番に向けての打合せと散策コースの下見を行いました。

この日の天候はあいにくの雨でしたので、東屋で本番の活動についての打合せをした後、傘をさしてため池までの道を春の植物を観察しながら散策をしました。天候が気がかりでしたが、はしかけメンバーは雨も気にせず活動を楽しみました。池のあたりはちょうどタイミングが良く、ワラビがたくさん採れました。本番は雨だと活動中止になるので、雨の中みずみずしい植物を観察しながら散策できたことも下見ならではの体験となりました。



■ 4月25日(日) 里山体験教室 本番 参加者 46名

下見の日とは打って変わって本番はよく晴れて、絶好の里山体験日和になりました。今年の里山体験教室の参加者は10組31名で、そのうち子どもが16名だったので、人数が多くにぎやかでした。



午前中は植物を観察したり、山菜を採りながら春の里山散策を楽しみました。散策をしながらいろいろな種類の野草の解説を聞いて、食べられる野草が多いことに驚いている参加者の方が多く、とても興味を持ってもらっていました。虫などの生き物が気になる子や自分から「これは何？食べられる？」と聞いてくる子どももいたり、それぞれに春の里山の自然を楽しみました。



午後は、里山についての話をした後、みんなで里山整備を行いました。子ども達もみんな熱心に整備をしてくれました。里山整備のあとは、木の名札づくりを行いました。丸太を切るところから体験してもらったのですが、最初はうまく切れなかった子も大人と協力してコツをつかみながら切っていました。切った後は木の質感やにおいを感じてもらいました。

活動中の様子やアンケートを見ていると、初めて知ることや体験することが多かったようで、大人も子どもも新しい発見があった活動になったと思います。次回の夏の体験教室では昆虫観察をする予定ですが、今回の参加者は虫に興味がある子どもが多かったので夏も楽しい活動になりそうです。

【今後の活動予定】

- 6月11日(金) 潮干狩り
- 7月 3日(土) 里山体験教室(夏)下見
- 7月11日(日) 里山体験教室(夏)本番



(11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-shoku-kan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

昨年から世界中に広がり猛威をふるう新型コロナウイルスの感染予防(重点的まん延予防、緊急事態宣言)のため、集まってお出かけが出来ない状況が続いています。1人でのお出かけ観察を行っているメンバーもいますが、分からないことがすぐに聞ける定例会と違い、観る視点が定まらなかったり1人ではつまらないと感じたりして1人お出かけをしなくなるとも聞きました。1日でも早くみんなで集まっての観察が出来る日が来るように祈るばかりです。

【活動報告】

4月 4日(日)	定例会	雨天のため中止	参加者	0名
5月 日(日)	新型コロナウイルスの感染予防のため中止		参加者	0名

【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。遠出の場合は、これに限らず、変則的になります。外部で行う観察会は、年に数回、みなさんにも呼びかけを行う予定(しばらくは、密を避けるため、行いません)です。このニュースレターを見て、直接現地へお越しください。基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行う」方向でいます。
- 6月 未定 博物館周り、樹幹トレイルの観察(新型コロナの流行次第によっては中止)
- 7月 未定 (新型コロナの流行次第によっては中止)

※4月以降の計画は、3月に集まれなかったため、メール等で相談して決めます。

この活動に興味のある方は、メール(上記メールアドレス)にてご連絡ください(〇〇)/当日、直接、実習室や現地へ来ていただいても結構です。



(12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 22名】

グループ代表アドレス: hashi-keisou@biwahaku.jp

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

【活動報告】

たんさいぼうの会第66回総会を、4月4日(日)夜にオンラインで開催しました。会員9人と影の会長に加え、琵琶湖梁山泊で珪藻の研究をしてきた新大学1回生3人も参加し、総勢13人の賑やかな会になりました。各自の自己紹介と活動報告の後、交流室顕微鏡の修繕完了や珪藻電子顕微鏡改良計画の進捗状況などが報告されました。そして、新型コロナ感染の収束状況を見ながら「はじめてのたんさいぼう」「たんさいぼうの小さな旅」などの行事を徐々に再開していく方針が採択されました。終了後はいつもの如く、Zoom飲み会です。そして嬉しいことに、後に新大学1回生3人もが、はしかけ登録を継続してたんさいぼうの会で活動してくれることになりました。3人も珪藻の同定能力では、長年活動してきた会員の中に並べても屈指の実力の持ち主で、これからは楽しみです。

会員の新たな論文執筆が、3本並行で進んでいます。メダカ水槽に出現する珪藻の報告は、すでに投稿済みで査読結果待ちというところまで来ています。藤ヶ鳴湿原の珪藻の論文は、種同定と写真プレートの整理が終わり、本文も概ね書きあがり、現在、地図や考察の加筆修正などを進めています。瀬田公園の珪藻の論文も同定作業と引用文献の整理まで完了し、現在、写真プレートを組んでいるところです。

【活動予定】

日本珪藻学会第42回大会(オンライン、6月12日~13日)で、会員による学会発表が予定されています。今のところ1件、5月30日の申し込み締め切りまでに、もう少し増えるかな?

新型コロナウイルス感染症がまだ収束せず、滋賀県では過去最悪レベルの感染者数で横ばいとなっているため、集まってお出かけはまだ当分できません。そこで、集まらなくてもできる活動を、それぞれに進めていきます。メダカ水槽の珪藻については、6月前半には査読結果が戻ってくると思います。藤ヶ鳴湿原(岡山市)、瀬田公園湿地(大津市)の珪藻についても、年末に発行される珪藻学会誌Diatomへの掲載を目指して完成に近づけていきたいと考えています。他にも個人研究として、古琵琶湖層群蒲生層の古環境の研究、古琵琶湖層群甲賀層の化石珪藻の研究、愛知県の鉱質土壌湿地群の珪藻植生研究、曾根沼・野田沼(彦根市)の珪藻植生研究、千種川(兵庫県)の珪藻植生研究などを進めていきます。



(13) 田んぼの生きもの調査グループ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 13名】

グループ代表アドレス: hashi-tambo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 鈴木 隆仁

新型コロナウイルスが各地で猛威を振るうなか、私たちのグループの活動もさまざまな制約を強いられていますが、皆様のご協力のおかげで、細々ながらも活動を維持できていることを、大変感謝しております。宅地開発や転作の広がり、田んぼのエビ達の姿を見ることができず少なくなっているように感じますが、本年度は、新たな試みに挑戦したいと考えていますので、グループの皆様の積極的なご参加をお待ちしています。

【活動報告】

- ・ 3月28日に、琵琶湖博物館において総会を開き、昨年度の活動のまとめと、本年度の活動計画を立案しました。その結果、本年度は、卵を保持する2種のカブトエビを採集し、しばらく飼育して採卵するとともに、人工環境で孵化させて2種のカブトエビの成長過程を比較し、2種が共存する地域での勢力圏の変化の要因を探ることになりました。
- ・ 2種のカブトエビ類の採集を予定している大津市の石山寺辺、赤尾町の水田について、注水、代掻き、田植えの日時を把握するための調査下見を、5月3日、8日、11日に実施しました。
- ・ 広域調査を予定している日野川流域の水田について、注水、代掻き、田植えの日時を把握するための調査下見を、5月4日、6日に実施しました。
- ・ 5月16日に、琵琶湖博物館において採集用の広口T型ピン、ネジ口瓶、標本固定用アルコールの準備を行いました。

【活動予定】

このニューズレターが発行されている時期には既に終了していることになるとは思います。

- ・ 5月22日(土) 石山寺辺地区、赤尾町にてカブトエビ類の採集調査。
 - ・ 5月25日(火) 日野町の日野川流域の水田、東近江市の白鳥川流域の水田でエビ類の採集調査
 - ・ 5月30日(日) 石山寺辺地区、赤尾町、または、月輪三丁目、大江地区でカブトエビ類の採集調査
- を実施する予定です。今年は、梅雨入りが非常に早いため、天候の影響により日程を変更する可能性があります。詳細は、メールでその都度お知らせする予定です。

(山川 栄樹)



(14) タンポポ調査はしかけ 【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-tanpopo@biwahaku.jp

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

<「タンポポ調査・西日本2020」実施中・2021年5月まで延長>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本2015」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。5年に1度2年にわたって実施される広域調査ですが、新型コロナウイルス対策により、本調査実施年に多くの行事が中止になりました。そのため、事務局では調査を2021年まで延長して実施することを決め、2021年3月から5月31日まで調査を実施中です。引き続き、ご協力をお願いいたします。

【活動報告】

なし。

【活動予定】

広域調査に合わせたグループであることから、今後活動の整理を進めており、グループとしては一度解散することも検討中です。2019年の調査の際に参加表明していただいたメンバーには、別途メールで今後の活動について伺う予定です。



(15) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-chikoaso@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大久保 実香

【活動報告】

◆コロナ対策のため、一般の参加はなしとして、ちこあそメンバーで4月5月の活動を行いました。

※今年度から、びわ博ホームページからのオンライン予約制に変更していましたので、キャンセルの連絡を行いました。

◆4月の活動 4/21(水)

コロナ後に、多くのちこあそ参加者に楽しんでもらえるように、畑でジャガイモを植えました。

生活実験工房裏の竹林に入り、タケノコ掘りをしました。落ち葉で一見すると、タケノコは見えないのですが、よく目を凝らすと落ち葉と土の間から、ほんの少し頭を出しているのが見えます。スコップやクワで固い周りの土を掘り、掘り続け、最後は根本に歯を入れて、グイッと持ち上げます。すると、太い孟宗竹のタケノコが取れました！放っておくと、生活実験工房へ進出していく困った竹ですが、こうやってみんなで掘ると美味しい食材となります。バンダナおじさんに料理の仕方も聞いて、お土産として持ち帰りました。来年はちこあそ参加の子どもたちと掘りたいですね。

◆5月の活動 5/19(水)

今回も、残念なことに一般の参加はなしで実施しました。春に植えた苗が少しずつ大きくなっているのを確かめながら、サツマイモの苗を植えました。ジャガイモはもう芽が出て葉っぱが大きくなりつつありました。周りの草を取り、土寄せをして、大きなジャガイモがたくさんできることに期待です。早めの梅雨入りで、雨の中の活動でしたが、カッパに傘に長靴に、ちこあそは雨でも活動します。

また、生活実験工房ではクスノキとヨモギの精油づくりをしておられ、一緒に良い香りを楽しませてもらいました。以前にも一緒にさせてもらったことがあり、その際は参加のお母さん方がとても楽しんでおられたのを思い出しました。子どもたちも香りの世界を楽しめる日が来ることを期待しています。

※ちこあそは、生活実験工房周辺の展示空間の自然で活動しています。屋外活動ですので、感染のリスクは低いのですが、幼児がマスクをしたり、子ども同士の触れ合いを避けたりすることは難しいことを理解いただいて、大人は三密を避け、また社会的な理解を得ながら活動できるように実施しています。

WEBで、活動の様子や次回のチラシを掲載しています。http://blog.goo.ne.jp/eco-macha をご覧ください。

【今後の活動予定】 びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
6月	6月16日(水) 10:00-14:00 第3水曜日です	ちこあそ6月	※毎月おおよそ第3水曜日に行っています。 コロナ禍のため実施についてはその都度判断します。 ループでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど
7月	7月21日(水) 10:00-14:00 第3水曜日です	ちこあそ7月	やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ボチボチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



(16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-bck@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大塚 泰介

【活動報告】

■ 4月、5月は新型コロナウイルスの感染拡大を考慮し、観察会は行いませんでした。

【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



(17) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ代表アドレス: hashi-biwatan@biwahaku.jp

グループ担当職員: 安達克紀・由良嘉基

【活動報告】

近隣府県、本県の感染拡大は未だ収まる気配を見せず、不安な日々を送っておられることと思います。
 昨年度よりわくわく探検隊の実施について、度々検討してまいりました。
 その結果、本年度のわくわく探検隊のスタートは、11月からの実施とさせていただきます。
 春の暖かい日差しの中での活動を、楽しみにしておられた方も多いためと思います。
 申し訳ありませんが、ご理解の程、よろしくお願い申し上げます。



(18) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ代表アドレス: hashi-hone-hone@biwahaku.jp

グループ担当職員: 松岡由子・中川信次

【活動報告】

■ 3月27日(土) 参加者: 3名
 クマの頭骨の組み立て、猫の解剖、を行いました。

■ 4月3日(土) 参加者: 2名
 クマの頭骨の組み立て、鳥の徐肉を行いました。

■ 4月11日(日) 参加者: 4名
 ウサギの解剖、猫の解剖、鳥の徐肉、キツネの組み立てを行いました。
 最近、新しく親子で活動に参加してくださっているメンバーの、お父さんはウサギの解剖を、お子さんはキツネの組み立てがしてみたいとの事で、この日から本格的な作業に取り組み始められました。



ウサギの解剖中のスケッチです。

どんな事でもそうだと思いますが、始めたばかりというのは、知らない事が多くどうしたら良いか分からないですが、半面いろいろな事が新鮮で面白く感じられますが、お2人も初めての作業に戸惑いながらも、興味のあるところをじっくり観察しながら作業されていたので、一緒に面白いものを見つける様な活動が出来ると良いなと思います。

■ 4月24日(土) 参加者: 2名
 鳥の徐肉、鳥のクリーニングを行いました。

■ 5月15日(日) 参加者: 5名
 ウサギの解剖、猫の解剖、キツネの組み立てを行いました。
 普段の活動は琵琶湖博物館の地下にある部屋で行うことが多いのですが、今回は感染症対策の事もあり、地下の部屋と博物館の大人のディスカバリールーム内のオープンラボの2箇所をお借りして活動を行いました。



組み立て中のキツネの椎骨です、針金で連結していきます。

解剖組と組み立て組に分かれ、組み立て組はオープンラボ内でキツネの全身骨格の組み立てを行いました。

イベント等の時に使用させていただく事はあったのですが、普段の活動として使用するのは今回が初めてで、初めは周りから見られる環境で作業するのは照れくさかったのですが、作業を進めるにつれ気にならなくなり、普段通りに制作できたのでよかったです。

今までも何度かオープンラボを使ってみたくて考えていたのですが、活動の性質上なかなか難しかったので、今回はちょうど作業内容も向いていたので良い機会となりました。

本当ならば、合わせて来館者の方達との交流活動も出来れば良かったのですが、なかなか時期的に難しいので残念です、今後も機会があればオープンラボを使っでの活動も活発に行って行きたいと思います。

【活動予定】

- ・5月30日の10:00~12:00に博物館での活動を予定しております。
- ・6月、7月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回2~3時間程度の活動を予定しております。



(19) 緑のくすり箱

【活動報告日の活動会員数(のべ) 20名】

グループ代表アドレス: hashi-midori-k@biwahaku.jp

グループ担当職員: 大槻 達郎

【活動報告】

■4月11日(日) 参加者: 8名

活動内容: 手作り蒸留器の勉強会(生活実験工房にて開催)

芳香植物を蒸留して芳香蒸留水と精油を抽出する方法として、手作り蒸留器の勉強会を開催しました。

ひとつはパスタ鍋で簡単にできる蒸留器、もうひとつはメンバーさんが自宅で手作りされた温度計や冷却器もついている本格的な蒸留器です。

パスタ鍋の蒸留器では、乾燥させたラベンダーや柑橘類の皮の蒸留を行いました。ラベンダーは、花と葉に芳香成分が含まれていますが、花と葉を分けて蒸留し、香りの違いを確認することができました。途中、水がなくなって焦げてしまうといった失敗もありましたが、それもよい経験となりました。お鍋の蒸留器はとても簡単な仕組みなのに、よい香りの蒸留水ができました。また乾燥させた柑橘類の皮からもフワッと香る蒸留水が取れましたが、香りはあまり強くはなかったです。

もうひとつの本格的な手作り蒸留器のほうでは、クロモジと柑橘類(レモンなど)の蒸留を行いました。クロモジは蒸留を初めてしばらくは、クロモジ特有のよい香りがなかなかしてこなかったのですが、だんだんと精油を目で確認できる頃から、よい香りも嗅いで確認することができました。また柑橘類のほうは、ミキサーで皮を粉碎して蒸留しました。5~6個の柑橘類の皮から、しっかり精油が採れて、スポイトで小瓶に移し、持って帰れるくらいの量の精油が採れました。この日はお天気も良かったので、琵琶湖博物館に来ていたお客さんも生活実験工房まで歩いて来られていて、「うわあー、いい匂い！」と香りに誘われ、活動を見学される方もいらっしゃいました。とても楽しい活動となりました。

【感想】

- ・手作り蒸留器の実験は初めてでもあり、とてもいろいろな発見があり面白かったです。
- ・柑橘類でも生と乾燥させた物では随分香りに違いがありました。
- ・クロモジは蒸留の過程で徐々に香りの変化していくのがとても興味深かったです。
- ・今度はフレッシュラベンダーでやってみたいです。
- ・お鍋でする蒸留器は、手軽で家でもやってみたいです。
- ・本格的な蒸留器はすごかったです。生活実験工房の部屋中が香りでいっぱいでした。



メンバー自作の手作り蒸留器



蒸留の過程で変化する香りの比較

■5月19日(水) 参加者: 12名

活動内容:季節の植物でアロマウォーターを作ろう(春)(生活実験工房にて開催)

ディスカバリールームの植物の香りの展示用として琵琶湖博物館で年4回開催している「季節の植物でアロマウォーターを作ろう」のイベントを今年度も緑のくすり箱と一緒に活動させていただいています。

残念ながら今回はコロナウィルスの感染予防のため、一般の参加は中止となりました。

今回は、クスノキとヨモギの蒸留を、アランビック蒸留器を使用して行いました。また、今回は先月の活動で実施したお鍋を使った鍋蓋式蒸留器でも蒸留し、比較をしてみました。

あいにくお天気が悪く、雨の中、クスノキとヨモギの採取をしました。蒸留する前は植物を細かくハサミを使ってカットしますが、とてもよい香りがしていました。まずクスノキの蒸留を最初に行いました。さわやかなとても良い香りが工房中に広がりました。また鍋蓋式蒸留器のほうには、樟脳(カンファー)と思われる結晶が蓋についており、採取することが出来ました。これにはメンバーも感動したようです。

次に、ヨモギを蒸留しましたが、出てきた蒸留水からは、先に蒸留したクスノキの香りが混ざったような香りがしており、蒸留器を洗ったのに、香りがなかなか取れていないことがわかりました。やはりクスノキの香りはとても強く、ヨモギを先に蒸留しなければならなかったと反省しました。鍋蓋式蒸留器でもヨモギを蒸留しましたが、そちらのほうがヨモギの香りらしい蒸留水が採れたので、そちらをディスカバリールームの展示用に使用させていただくことにしました。

いつも最後に蒸留窯に残った湯で手浴をしますが、ヨモギの湯はとても体が温まりました。採れた蒸留水で、ラベンダーやレモンの精油と合わせてアロマスプレーを作りましたがとてもさわやかな良い香りのスプレーができました。

【感想】

- ・作ったアロマウォーターは、さわやかで梅雨の今頃にはちょうど良いです。
- ・いつもの蒸留器とともに鍋蓋式の蒸留器も同時に体験でき、興味深かったです。
- ・クスノキの結晶(樟脳)が鍋蓋に付着しているのを見ることが出来て感動しました。
- ・ヨモギの手浴はポカポカ体が温まり良かったです。
- ・鍋蓋式の蒸留器のアイデアは素晴らしいです。蒸留が身近になりました。
- ・クスノキの蒸留は、香りの強さに驚きました。
- ・ヨモギの香りは期待を裏切らない良い香りで使用後の手浴がとても気持ちよかったです。
- ・ヨモギにシネオール成分が50%もあるということも驚きでした。生活の中にもっとヨモギを上手に取り入れていきたいと思います。

【活動予定】

・6月27日(日) 10:30~ ビワの葉温湿布、ハーブティーの勉強会 場所:生活実験工房



アランビック蒸留器



鍋蓋式の蒸留器



樟脳の採取



(20) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0 名】

グループ代表アドレス: hashi-mushikake@biwahaku.jp

グループ担当職員: 八尋 克郎

【活動報告】

■引き続き一堂に会しての活動はできませんでしたが、虫架け通信を発行し会員同士の交流をはかりました。

LBM 虫架けグループ

No.31



2021年4月29日発行

- 連絡
- 昆虫豆知識
- 記録・短報
- 最後に

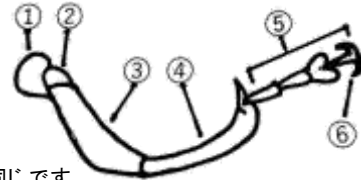
関西地方において新型コロナの変異株の感染拡大により、再び感染者が増加してきています。その為、琵琶湖博物館が5月11日まで休館します。虫架け活動もしばらくの間は、残念ながら活動を自粛することが賢明だと思われます。活動再開のめどがたちましたら、みなさんにご相談させていただきます。

今回は前回紹介したセンチコガネ類(オオセンチコガネとセンチコガネ)の雄と雌の見分け方について解説します。甲虫類の雄と雌の違いが顕著に表れる場所は触角や脚の種類が多いようです。もちろん他にもクワガタムシのように大あごやカブトムシのように角であることもあり、グループによって表れ方が異なりますが、センチコガネ類の場合は脚で識別ができます。

そこで甲虫類の脚の構造と名称を確認していただこうと思います。

ゾウムシ類の前脚の例

- | | |
|-----------|-----------|
| ①基節(きせつ) | ④脛節(けいせつ) |
| ②転節(てんせつ) | ⑤跗節(ふせつ) |
| ③腿節(たいせつ) | ⑥爪(つめ) |



見分けるポイントはオオセンチコガネ、センチコガネともにほぼ同じです。

	雄♂	雌♀
前脛節(ぜんけいせつ)	先端に向かってわずかに太くなる 先端の外歯が前方に伸びる	先端に向かって顕著に太くなる 先端の外歯は斜め外に曲がる
後腿節(こうたいせつ)	下側に突起がある	突起がない

*センチコガネでは前脛節の下面に下に向かった突起が雄に出ます。



オオセンチ前脛節



センチ前脛節



オオセンチ後腿節

*画像はすべて左雄、右雌です。

武田: 昨年度までは近江八幡市佐波江浜、彦根市新海浜、大津市近江舞子浜の3ヶ所を中心に調査してきましたが、今年度から他にも地域の浜にも回るようになります。すでに湖西・湖東の別の浜にも行っております。また、次の機会にでも新顔の虫と共に報告させていただきます。

新しい年度がスタートしました。学生さんたちも新たな学校やクラスで新生活がスタートすることになるでしょう。ただ、虫は毎年のように季節が来れば変わらず姿を見せてくれます。みなさんと共に虫の季節の始まりを共感できないのは残念ですが、虫屋にとって4月は楽しい季節のスタートでもあります。

編集: 武田・梶田

【活動予定】

・新型コロナウィルスの影響で予定が不透明ですが、可能であれば1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行いたいと考えています。

昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の分布調査をしています。

※都合により、新規会員の募集は当面見合わせております。(文責: 梶田)



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 4名】

グループ代表アドレス: hashi-morihito@biwahaku.jp

グループ担当職員: 林 竜馬

【活動報告】

■3月27日(土)10:00~12:00 参加者:(会員)4名

内容:琵琶湖博物館の職員駐車場の周辺で植物観察会を実施した。定期的に草刈りが行われる場所であるが多くの植物が見られた。秋に発芽しロゼットなどで冬を越す植物にとっては草刈りで日当たりが良くなり好都合であろう。写真のもの以外で花を咲かせているのはジシバリ類、ムラサキサギゴケ、トキワハゼ、オランダミミナグサ、ノミノフスマ、ハルガヤ、スズメノヤリ、外来タンポポ、オッチチカタバミ、ホトケノザ、キュウリグサ、スイバなどであった。



花が咲いていないものはわかりにくいですが皆さんの知識を総合するとノビル、ツルボ、ノヂシャ、ブタクサ、コマツヨイグサ、マツヨイグサ、ギシギシ類、キツネアザミ、アメリカフウロなどであると思われる。花の時期に確認したい。木本ではゲッケイジュは蕾、アカメヤナギ(マルバヤナギ)は少し芽が膨らんだ程度、未同定のヤナギ(コゴメヤナギ?)は葉の展開と同時に開花していた。久々の活動で皆さんが熱心に観察したので職員駐車場の周辺だけで予定時間となった。

■新型コロナウイルス感染症への対応として4月及び5月8日の活動は休止した。この間は個人的に観察したことなどをメールやブログ(<https://morihito.blogspot.com>)で共有することにした。

【今後の予定】

新型コロナウイルス感染症の状況が良くなれば下記の日程で実施したい。

■5月22日(土) 内容:外部観察会(検討中)

■6月12日(土)、6月26日(土) 内容:外部観察会(検討中)

以上



(22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ代表アドレス: hashi-ryozanpaku@biwahaku.jp

グループ担当職員: 中井 克樹

【活動報告】

5月1日(土)の午後、Zoomを使って「琵琶湖梁山泊オンライン総決起集会」を開催し、4題の研究発表が行われました。博物館学芸員等にも参加を呼びかけたこともあり、会員8名のほか、博物館関係者等約20名が参加しました。

【活動予定】

科学部のメンバーをはじめとする高校生がグループの主な構成員であり、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐために配慮をしながら、それぞれの学校での活動を進めている状況です。博物館としては、各学校での対応に従いながら、質問や調べものがあればメールなどで気軽に博物館を使ってくれればと考えています。



SALON DE 湖流
L'ART ET LA MUSIQUE

(23) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ代表アドレス: hashi-salondekoryu@biwahaku.jp

グループ担当職員: 戸田 孝

【活動報告】

■4月10日(土)13:30～ ギャラリー展示に向けての作戦会議

場所: 琵琶湖博物館 実習室1

参加者: 2名 (はしかけ1名 学芸員1名)

このグループの活動に関連するギャラリー展示が12月18日(土)～3月6日(日)の予定で開催されることになったので、それに向けての作戦会議を行いました。4月中に協力してくれそうな関係者に声をかけ、5月中に展示コンテンツ概要を固めるという目標を進めることになりました。

■5月8日(土)20:00～21:00 ギャラリー展示に向けての検討会

場所: オンライン開催(Zoom)

参加者: 3名 (はしかけ2名 学芸員1名)

とりあえずの叩き台として、担当学芸員がどういうことを考えているかということ簡単なパワーポイントプレゼンテーションで示し、意見を出し合いました。このプレゼンテーションは参加しなかったメンバーにもネットから見れるようにしてあります。

【活動予定】

原則として毎月第二土曜の午後には会合を持つ方針は従来通りですが、オンラインでの開催も積極的に進めて行こうと考えています。



【活動報告】

■ 3月12日(金) 9:40-14:00 参加者6名

①活動場所: 守山市・野洲市

②調査目的: 旧野洲川に点在する神社を訪問して、旧野洲川の天井川としての宿命である災害の爪痕や郷土に残る災害関連の逸話伝説の収集および当時の堤、いわゆる土手の痕跡を訪ね、当時の暮らしの実態を調査した。

③調査場所:

A 蜷江(つぶえ)神社:(守山市笠原町)

神仏習合の姿を残し、鳥居と山門、社殿と地藏院・毘沙門堂が並んでいる。境内には御蜷様池と呼ばれる池があったが現在は涸れていた。「たにし」を神の使いとして保護していた名残。

B 新宮神社:(守山市立田町)

旧南流の堤防跡沿いで流れを見守ってきた村社。990年建立で、ご祭神は経津主神(武芸の神)。後述の鹿島神社の智の神様とは対の関係だそう。

C 愛の内明神社(守山市立田町)

戸田村の堤防決壊が相次ぎ、人身御供した悲しい話の主人公を祀る神社。旧堤防の下に静かに佇んでいた。

D 開発己爾乃神社(こじの):(守山市洲本区)

式内神社で天児屋根尊(あまのこやねのみこと)を祀る。

E 大曲己爾乃神社(おおまがりこじの):(守山市洲本町大曲区)

D同様。古来より此の地は曲峡の里で旧南流が屈曲しながら流れていたことから地名となった。

F 中野樹下神社:(守山市水俣町中野)

日吉大社の樹下神社を奉斎し、玉依姫命(たまよりひめのみこと)を祀る。大正3年の堤防改修時に上中野と下中野を現在地に合祀された経緯あり。

G 樹下神社:(守山市今宮町 地球市民の森道路脇)

中野樹下神社と同じ、日吉大社の樹下神社を奉斎し、玉依姫命(たまよりひめのみこと)を祀る。

H 雛鶴稲荷神社(ひなづる):(守山市幸津川町)

切れどころの守り神、幸津川の稲荷神社である。250年前に堤防の守護祈願を兼ねて、旧北流がU字型に大きく向きを変える所に建立された。石段を登った所が旧北流左岸の堤防として唯一残存している箇所である。北流跡が今でも確認できる。

I 竹生地区に残る旧北流の親柱

川田大橋の北詰に隣接する竹生集落の中に旧北流の跡があり、竹生橋の親柱が名残りで保存されていた。

④今回のまとめとして

前回調査の旧北流の神社や集落の多くには勧請吊りの風習が見られたが南流域にはその存在は残っていなかった。北・南流域とも神社境内の清掃は行き届いており、風習の差異が何か他の事に因するものか究明してみたいものだ。



□蜷江神社裏の堤上の社(つぶえ)



□愛の内明神社



□雛鶴稲荷大社

■ 3月21日(日) 10:30-12:00 参加者 3名

①活動場所: 野洲歴史公園田園空間センター「野洲川の近年の歩み」講演

②調査目的: 「野洲川に生きた住民による災害の歴史と新放水路開設への想いと苦悩」を生き証人である地元「野洲てんくうの会」斉藤伝之会長による講演を拝聴し、野洲川探訪の知見向上を図った。

③内容: 講演者は、この時代の生き証人であり、言葉には現実感あふれるものがあつた。災害との苦闘、近隣住民の絆新放水路開設での周辺地域の利害の錯綜など、あつという間の2時間であつた。

■ 4月8日(木) 9:40-12:30 参加者 5名

①活動場所: 守山市

②調査目的: 旧野洲川の南下流域での住民の暮らしを知るために立田町(旧戸田村)と近郊の神社を訪問し名残りの確認を中心とした町歩きを行なった。事前に杉田氏が立田町古老よりのヒアリング内容披露も含め。その他、関連する神社も訪問した。

③調査場所

A 守山市立田町界隈

旧南流の北側堤防と旧北流の南側堤防に挟まれた輪中(輪中)に位置する集落で旧戸田村である。堤防に接する新宮神社の後ろには洪水時の人身御供を祀る「愛の内明神社」がある。周辺林には棕櫚が残っており水のろ過に使用していた材料であろう。また、竹林も多く、日用雑貨、産物への利用させていたのであろう。集落には水路が張り巡らされていた。この付近は中州の伏流水があちこちから湧出しており、水量的には困らなかったと思われるが金つ気のため水路が赤さびており、飲料用にはそれなりの浄水ろ過が必要であったであろう。また、集落各戸はカワトを所有していたようである。名残として、今でも内カワト、外カワトがみられた。

前述した棕櫚と水ろ過・水質の関係は大いに興味深いものである。

集落内の神社は、前述2社と鹿島神社の3社があるがともに鎮水の神様が祀ってある。鹿島神社の裏手の林の中にある「ちりんさんの池」は昔は伏流水が自噴していたが現在はポンプUP方式であった。また、集落の道は少しくねらせており、外部からの侵入者に対する防御からのものらしい。



○棕櫚の木



○愛の内明神社裏の湧水池



○鹿島神社3 以前の湧水池跡

B 下新川神社:(守山市幸津川)

野洲川の司水神として崇敬されていたと伝わる。元正天皇、靈龜二年開拓の祖神。

国選択無形文化財「すし切りまつり」鮎ずし切神事やケンケト祭りで有名。

境内の池は今は少し白濁している水がポンプUPされて流入している。昔は伏流水が自噴していたらしいが今は農業用水を周辺からポンプUPしているとのこと。

C 宮川池(江西湧) 蛭池(矢島湧): 守山市鳩の森公園

かつての湧水地の一つです。宮川池は江西湧、蛭池は矢島湧と呼ばれ、それぞれ江西川、平久曾川を経て、川下の今市、荒見、矢島の田の灌漑に用いられていた。一部湧水が鳩の森貢献に残っており、ポンプUPされ池の中央に流出させている。



○下新川神社の境内の池



○宮川池(江西湧)



○蛭池(矢島湧)

D 馬路石邊神社(うまいそべ): 守山市吉身町)

馬路とは陸路のことで、東山道の往還の地であり、石辺(いそべ)は野洲川水路の関連を忍ばせている交通の要衝でもあった。延喜式神名帳記載の式内社で境内に「鶴の森」と呼ばれる森があり、春は桜、夏はホタル、秋は紅葉と自然の宝庫その「鶴の森」と呼ばれる参道の森の中に湧水がでて、水路を通じて川に流れ出ている。昔の船着き場であった面影か？

馬路石邊神社の茅葺屋根の門をくぐると手水がある。この手水の由来は日本書記に記された持統天皇の条に靈泉近江国益須郡都賀山に涌々とある。この龍の口から湧き出る神水は神社の大地からの良い水と記されていた。

④今回のまとめ

過酷な自然環境の中で暮らして来た、野洲川下流域の各集落の皆で団結し、絆を深めて農地を守り続けてきた工夫の数々過酷ではあるが豊穡な土地の持つ力にも感動する。

また、何かに頼りたい、すがりたい、崇高のための神社の存在も暮らしには無視できない大きな要素であったと思われる。神社の持つ意味、力、想いは計り知れないものだ。



○馬路石邊神社「鶴の森」



○馬路石邊神社の山門



○馬路石邊神社の手水(靈泉)

【活動予定】

・5月27日(木) 野洲川水系調査予定

(本稿の執筆者:小篠)



(25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ代表アドレス: hashi-kaihin@biwahaku.jp

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

*令和3年3月19日(金) 9時30分~12時00分

天気:晴れ 気温:12℃ 参加者:5名

観察状況 *春を感じさせる暖かな日。心地よい波の音を聞きながらの作業。波は穏やか。ピワコハレーと金糞岳に残雪が見られる。コマツヨイグサやカワラヨモギ等の新葉が大きくなっている。ノカンゾウ?が保護区内に侵出してきている。

活動内容 1. ミーティング 2. 保護区内で雑草の駆除(チガヤ、コマツヨイグサ、ノカンゾウ?等) 3. 浜のチガヤ、コマツヨイグサ等の除去

海浜植物

*ハマゴウ:未だ枯れた枝だけが浜に広がっている。

*ハマエンドウ:新葉が大きくなっている。保護区内の南と東に延びてきている。

*ハマヒルガオ:西側トイレ近くの石積周りでハマヒルガオの葉が多数見られた。

*ハマダイコン:探したが見当たらず。



波江浜のタチスズシロソウ 約10株 花を咲かせていた。



6日の琵琶湖 水位:-8cm

【活動報告】

*令和3年4月6日(火) 9時30分~12時00分 天候:曇りのち晴れ 気温:14℃

参加者:6名

観察状況

暖かではあるが時折吹く風は少し冷たい作業日。浜の芽吹きを感じながらの作業。波は穏やか。対岸の山に残雪が見当たらない。コマツヨイグサやカワラヨモギ等の新葉が大きくなっている。

第2 浜の川が7m 程砂に埋まり無くなりつつある。第2 浜はゴミが山積している。

活動内容

1. 平成3 年度「海浜植物守りたい」定期総会。
2. 保護区内で雑草の駆除（チガヤ、コマツヨイグサ、ノカンゾウ等）。
3. 浜のチガヤ、コマツヨイグサ等の除去。
4. 第2 浜の観察

海浜植物

*ハマエンドウ：・つぼみが1 か所ふくらみ始めた。・新葉は大きくなり茎も15 センチぐらいまで伸びている。・保護区西側のロープの外は特に勢いが良い。第2 浜のハマエンドウがチガヤとゴミで埋もれそう。

*ハマゴウ：・未だ枯れた枝だけが浜に広がっている。

*ハマダイコン：・松が植栽されたあたりに群生が見られた。

*ハマヒルガオ：・浜のあちこちで新葉が広がり始めた。



ハマゴウ



ハマエンドウ



ハマダイコンの群生



第2 浜の様子



【活動報告】

*令和3年4月16日（金） 9時15分～14時30分 天候：曇り時々小雨 気温：12℃

参加者：5名

観察目的

以前生育を観察した海浜植物がどのように生育しているか知ることにより、生育の状態や生育状況の変化を確認する。

観察場所

- ①新海浜
- ②今津桂浜園地
- ③北小松
- ④近江舞子内湖前
- ⑤和邇今宿浜(さかえ荘)

観察観察（観察した場所及び海浜植物の記録）

- ①新海浜 ハマエンドウ・ハマゴウ・ハマヒルガオ 前回の観察日：令和3年4月6日(火)

*ハマエンドウ：・花が7～8か所咲いていた。保護区の南入口や、松の木の下、チガヤに囲まれた西側に多く見られた。つぼみもあちこちに見られる。葉も大きくなり茎も伸びてきた。

*ハマゴウ：・枯れた枝の先に赤みの帯びた新芽が見られた。

*ハマヒルガオ：・浜のあちこちに葉が広がり始めた。葉も大きくなっている。蕾もつき始めた。

- ②今津桂浜園地 ハマダイコン 前回の観察日：平成30（2018）年4月12日(木)

*ハマダイコン：・前回より格段に少ない。花は全盛期で種（さや）も見られた。今回は背丈ぐらいで群生し、ベンチが埋もれていたが、今回は見つけられた。しかし、他の場所や道路を挟んだ向かい側の路肩には群生が見られた。地元の人に聞くと前回の観察場所は刈り取りが行われたらしい。

- ③北小松 タチスズシロソウ 前回の観察日：平成31年4月22日(水)

*タチスズシロソウ：・今回は、浜の入り口の小屋の基礎端に高さ40センチぐらいのタチスズシロソウが多数確認できたが、今回は2株のみで花も終わり種（さや）沢山付いていました。

今年は暖冬のため1週間ぐらい早いように思われます。枯れた雑草が目立つ。

- ④近江舞子内湖前 ハマエンドウ 前回の観察日：平成31年4月22日(水)

*ハマエンドウ：・木の下ハマエンドウは花が咲いていた。面積は少し南側に広がっているように見えた。・前回に便所のあった周りにたくさん確認できたが今回便所は取り壊されていた。

・園地の保護区の中にも以前と同じように確認できた。数は増えている。道側のツツジの木の中や下には沢山花も咲き、茎も伸び葉も大きい。ハマエンドウ保護区に指定され、看板が立てられるようです。

⑤和邇今宿浜 (さかえ荘) ハマエンドウ 前回観察日：平成29年12月23日(土)

*ハマエンドウ：・面積が約4倍に広がっている。広がりにはびっくり感激した。葉も大きく茎も長い。ツルも伸びて巻き付き花が咲いている。(前回約3m×3mの9㎡・今回約5m×7mの35㎡)。西側の木の下や枯れ木の元にも広がっている。杭が打たれ保護ロープが張られていたが外側に拡大している。ハマエンドウ保護区に指定され、看板が立てられるようです。
 コマツヨイグサの大きな株が見受けられ早めの除草が必要かと思ひます。県に確認してからですが、今宿浜の草取りをしたいと考えています。

①新海浜



③北小松



②桂浜園地



④近江舞子内湖前



⑤和邇今宿浜 (さかえ荘)



3. 生活実験工房からのお知らせ

昨年度に引き続き、田植えイベントが中止になりました。そのため、本年度の田植えは展示交流員さんの研修の一環として行うことになりました。展示交流員さんには、作業前に座学で米作りのサイクルや、農政の展開方向、農村文化などを学んでいただき、その後、泥にまみれながら農作業をして頂きました。慣れない田んぼでの作業に足を取られる光景も多々見られましたが、無事田植えを終えることが出来ました。苗の成長が楽しみです。

また、水を張った田んぼには多くの生き物たちが集まり始めました。5月22日には金尾学芸員が田んぼでオンライン観察会を開催されました。遠くは沖縄から視聴いただいた方もいらっしゃる、あいにくの雨でしたが、オンライン越しにたくさんのコメントや「いいね！」が届いていました。



5/10 田植え

【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房
稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

- 6月 6日(日) 豊かな生きものを育む水田講座(初級)
- 7月 25日(日) 昆虫採集
- 9月 12日(日) 稲刈り、ハサ掛け(早稲品種)
- 10月 3日(日) 稲刈り、ハサ掛け(晩稲品種)
- 11月 21日(日) 秋の生き物を探そう
- 12月 19日(日) しめ縄づくり
- 2月 6日(日) わら細工

担当:交流係

4. その他の事項

(1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合は、グループ代表アドレス(各グループの報告欄に掲載)にご連絡ください。

(2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

(3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

(4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。